

# 98年度 原子核三者若手 夏の学校 三者総会議案書

## 名簿校（京大）

### 1 三者若手名簿について

#### 1. 会計（1998/7/11の時点での見込）

注文取り → 名簿価格の決定（昨年度と同じ手順）

- 全注文数：596部
- 発行部数：600部
- 名簿価格：1部500円

収入（見込）	支出
三者センターより：40,000円	
各研究室より（名簿代）： $500 \times 596 = 298,000$ 円	名簿印刷代：292,950円
各研究室より（郵送料）：45,980円	郵送料：45,444円
合計：383,980円	合計：338,394円

以上より

$$383,980 - 338,394 - 40,000 = 5,586 \text{円}$$

の黒字の見込。

#### 2. その他

- 郵便番号7桁化が不十分だった。
- Progress 編集室（基研）も名簿を毎年3部購入したい。

# 三者準備校(東大)

## 1 活動報告

1. 開催場所：妙高高原池の平「ホテル アルペンブリック」
2. 開催期間：7/20(月)~7/26(日)
3. 参加人数：約370名
4. 参加費：3,000円、1泊3食で5,500円
5. 主な活動
  - 昨年9月：準備グループ発足、ホームページの立ち上げ
  - 1月：会場下見、会場決定、仮契約
  - 2月：ポスター作成・印刷
  - 3月から4月：参加者受付システムの開発・テスト
  - 5月：会場下見、本契約、パンフレット作成、パンフレット・ポスターの発送
  - 6月：申込受付(申込受付システムの運用)、各パート準備校との連絡
  - 7月：払込金の確認、部屋割り、食券・領収書の製作、その他準備業務
6. いままでと大きく違うこととしては
  - 参加者申込を Web や電子メールを使い自動化した。
  - 旅費の補助を後払いにし、また現地での現金の取り扱いを極力さけるために郵便振替による払出証書により旅費の補助の支給、申込変更による返金を扱うことにした。が挙げられる。
  - 参加者申込の自動化については、2月頃に雛形を作り、東大の人間の協力を得てテストをし、実際に運用した。特に大きなバグもなく、申込の処理(登録確認を含む)も計算機により自動化したため、それにかかる人手は激減した。このシステムは、(一応)来年度以降も使うことを意識して作ったので、多少の変更で来年度以降も使えるものと思われる。

今年度は三者から三者準備校への補助金として「参加者受け付けシステム製作」という用途で60,000円の予算を受けたが、来年度はこれを縮小し、結果的に三者準備校への補助も縮小するのが妥当と思われる。
  - 旅費の補助の支給については、例年は費用から旅費の補助を差し引いた金額を払い込んでもらう形で支給していたがその方法だといろいろ問題が考えられたため、今年は一旦、全費用を払い込んで頂いた上で郵便振替の払出を利用することで支給することにした。また、同時に現地での申込修正に伴う返金もこの方法を利用し、現地での現金の扱いをさげ、準備校の負担が小さくなるよう努力した。
7. 連絡には yonupa-ml を活用したが、決して参加者全員が yonupa-ml のメールを読んでいるわけではないようだ(大切な連絡も徹底しないことがあった)。今回は、全員が Web や E-mail で申込をしてくださり、参加者全員が E-mail アドレスを持っているので、それをもとに短期限定のメーリングリストを立ち上げ、それを夏の学校の連絡に使ってきた。もっと、yonupa-ml への加入が増えるよう、担当部署で方策を考えていただきたい。

## 2 予算変更について

夏の学校準備を進めていくうちに、当初の予算から変更せざる得なくてはならない状況となった。次のように予算の変更を申請し、ご承認いただきたい。

項目	元々の予算	変更	支出済み額
下見・契約代	30,000	14,995	14,995
ポスター代	60,000	120,000	120,000
郵送料	70,000	0	0
コピー代	50,000	50,000	17,493
文具代	10,000	10,000	0
ネームプレート	0	20,317	20,317
補助金	180,000	180,000	0
計	400,000	395,312	

ポスターに予算よりお金をかけてしまったが、その分、郵送料をなくすことに成功し、また、昨年のものが使えると思っていたネームプレートがほとんどなく、元々の予算になかった購入となった。しかし、合計額はもともとの400,000円を超えることなく、また用途も reasonable と準備校では考えているがどうであろうか。

## 3 参加費の用途

(これからの話は7月9日の申込者数に基づいて書いている。)

本年度は、参加費として参加者1人当たり3,000円を徴収させていただいた。その結果、参加者372名から、1,116,000円の収入があった。

現段階でわかっている用途としては

1. 旅費の補助：755,390円
2. 旅費の補助支給に伴う郵便振替手数料：20,000円(概算)

がある。また、これから準備にかかわることで必要と思われるものについてはここから準備校の判断で支出させていただくが(その明細については秋の学会時の総会で報告する)、いずれにしても300,000円程度は残る。準備校としては、参加費の余りについてはセンター校に納入し、今後の三者の活動資金とすることを提案する。

## 4 補助について

昨年の夏の学校三者総会で議論になった「給金問題」であるが、今年度はホテル側から、準備者の宿泊費を1日20泊、7日で140泊無料にするという三者夏の学校への協賛を頂き、それを役職校、および各準備校で割り振った。それを報告しておく。

先にも述べたが、三者準備校には三者から180,000円の補助金が支給されている。しかし、我々は参加申し込みの自動化により申込業務が簡素化されたり、現地での滞在人数の縮小(今年度はのべ32人である。昨年の議案書に寄れば昨年は90人と見積もっていた)を試みている。そういう成果から、今後の三者準備校への補助金は縮小に向けて議論するべきであるだろう。

## 5 企業献金に関する現状

これについては、三者総会で担当の大山がお話しいたします。

(文責：原 旅人)

## 三者センター校(東北大学)

以下に98年度 若手夏の学校に関する現時点での収支報告を議案として提出します。

### 1 追加予算案

1. 高エネルギー パート会場費 (高エネパート予算): 14,600 円

以下内訳

▷ 午前 公民館使用料 4,000 円 × 6 日 = 24,000 円

▷ 午後 公民館使用料 5,200 円 × 1 日 = 5,200 円

▷ キャンセル料 = 14,600 円

(ホテルから会場を借りられることになった為、当初予定していた会場をキャンセルしたことに伴う費用)

2. 97年度講義録発行費 (97年度 三者事務局予算): 88,147 円

以下内訳

▷ 印刷代 1,150 円 / 冊 × 73 冊 = 83,950 円 (税込 88,147 円)

(総数 200 部の残り 127 冊 (146,050 円 (税込 153,352 円)) は基研の予稿集印刷費の残額より捻出)

3. Review Talker への補助 (原子核パート): 30,000 円

以下内訳

▷ Review Talker への補助 10,000 円 × 3 人 = 30,000 円

4. 三者センター校からの予算申請 (三者センター校): 10,000 円

以下内訳

▷ 振り込み手数料 10,000 円

### 2 現段階での収支報告

#### 2.1 前年度(1997年度)繰越金

- 1,664,792 円

## 2.2 各研究機関からの補助内訳

研究機関	区分	申請額（円）	援助額（円）
基研	校費（講師の旅費等）	500,000	500,000
基研	校費（予稿集印刷費）	300,000	200,000
RCNP	校費（講義録印刷費）	270,000	0
合計			700,000

(補足)RCNPからの援助打ち切り、またそれに伴う本年度講義録の取り扱いについては総会に於いて説明します。

## 2.3 任意団体からのカンパ

研究機関	区分	申請額（円）	援助額（円）
素粒子論グループ	現金	450,000	450,000
合計			450,000

## 2.4 役職校への予算 割り振り額

役職校	今年度予算額
三者準備校	414,600
三者事務局 (97年度)	88,147
三者事務局 (98年度)	30,000
三者センター校	10,000
名簿校	40,000
素粒子パート	60,000
原子核パート	99,980
高エネパート	14,000
合計	756,727

### 3 収支の増減（1997年度との比較）と1999年度への対策

以下に1997年度決算と1998年度予算案の比較、および1999年度以降の素粒子論グループからの援助打ち切りへの対策についてまとめる。

#### 3.1 1998年度収支見込み（現段階）……約271,000円（黒字）

以下、その概算

1997年度収支決算 …… 393,167円（黒字）

##### 1. 実質収入金額：9,721,160円

- ▷ 収入合計金額：… 11,035,994円（左記金額は校費を除いた金額である）
- ▷ 前年度（1996年度）繰り越し金：… 1,314,834円

合計金額：11,035,994円 - 1,314,834円 = 9,721,160円

##### 2. 実質支出金額：9,327,993円

合計金額：9,721,160円 - 9,327,993円 = +393,167円（黒字）

1998年度支出増減見込み額（前年度比）……約121,000円増支出

##### 1. 三者四役予算請求増減額（予算案段階）：約153,400円増額

- ▷ 三者準備校予算請求額（前年度比）… +55,400円
- ▷ 三者事務局97年度予算請求額（前年度比）… +88,000円
- ▷ 三者事務局98年度予算請求額（前年度比）… ±0円
- ▷ 三者センター校予算請求額（前年度比）… +10,000円
- ▷ 三者名簿校予算請求額（前年度比）… ±0円

（ただし、上記金額はおおよその額である）

三者四役合計金額：+55,400円 + 88,000円 ±0円 + 10,000円 ±0円 = +153,400円

##### 2. パート予算請求増減額（予算案段階）：約32,000円減額

- ▷ 素粒子論パート予算請求額（前年度比）… ±0円
- ▷ 原子核パート予算請求額（前年度比）… -21,000円
- ▷ 高エネルギーパート予算請求額（前年度比）… -11,000円

（ただし、上記金額はおおよその額である）

3パート合計金額：±0円 - 21,000円 - 11,000円 = -32,000円

合計金額：+153,400円（三者四役） - 32,000円（パート） = +121,400円

決算金額：393,167 円 - 121,400 円 = 271,767 円

### 3.2 1999 年度への対応

1999 年度も今年度と同内容の夏の学校を開催すると仮定すると、今年度と同じ 221,000 円程度の黒字が予想される。しかし、1999 年度には素粒子論グループからのカンパ、金額にして 45 万円が打ち切られることになっているため、差引き-229,000 円の収支（赤字）が見込まれる。この節では、この赤字にどのように対処すべきかについて提案する。

#### 1. 参加費の値上げ：222,600 円

- 今年度 ... 3,000 円 × 371 (人) = 1,113,000 円
- 来年度 ... 3,600 円 × 371 (人) = 1,335,600 円

参加費値上げ増収額：1,335,600 円 - 1,113,000 円 = 222,600 円

#### 2. 企業献金の使用：

#### 3. 核物理委員会及び高エネ同好会へのカンパ申請 現状では難しい。

本章で考察した対応の結果、本提案が可決されれば、下記のような赤字の減額が見込まれる。

約 221,000 円 (黒字) - 450,000 円 (素 G) + 222,600 円 = -6,400 円

## 三者事務局 (大阪大学)

大阪大学 芳本孝史      yoshi@kern.phys.sci.osaka-u.ac.jp

### 1 活動報告、決算報告

- 5月 予稿の収集、基研に郵送
- 6月 予稿集を各大学に郵送

#### 収入

三者センターより      30,000 円

#### 支出

予稿集郵送料      13,280 円  
その他、雑費      1,554 円

## 決算

30,000 円 - 14,834 円 = 15,166 円 の繰越の見込み  
(各大学にまとめて郵送を行ったことにより郵送料が削減されたため)

## 2 来年度講義録の作成について

### 2.1 大阪大学 核物理研究センター (RCNP) からの援助について

先の yonupa-ml でセンター校東北大学からの報告にあった通り、大阪大学核物理研究センター (以下 RCNP) 江尻宏泰センター長から今年度の講義録の発行に関して以下の連絡があった。

- 従来の印刷による講義録の発行に代え、RCNP のホームページに掲載する。
- 講義録は英語で作成する。

これに対し原子核三者若手は、この連絡が5月にあったということから十分な議論が行なえなかったため従来通り講義録の印刷を行なった (詳細は今年度センター校東北大学、昨年度三者事務局東京都立大学)。

### 2.2 来年度の講義録の発行形態について

来年度も RCNP から講義録の印刷費を援助してもらえない場合を考えて以下に採り得る対策例を挙げておく。

#### 2.2.1 印刷する場合

1. 他の研究機関に援助を要請する。または各研究室にカンパを要請する。この場合、一括して印刷費の援助を受けられない場合は印刷業者から各研究機関・研究室が数部購入するという形態にしてもらう。
2. 予稿集印刷の廃止・電子化。現在予稿集の印刷に当てられている京都大学基礎物理研究所からの援助 (今年度 20 万円) を講義録の印刷費に当てる。不足分は財源を別途考慮する必要がある。
3. 買い取り制。

#### 2.2.2 電子化する場合

電子化する場合以下に挙げた問題点に対し先に解決法を明確にしておく必要がある。

問題点 1. 講義録中に借用されている図について著作権の問題が発生する。

問題点 2. 講義録中に含まれる図の電子化について作成を担当するパート準備校及び編集を担当する三者事務局のすべてがスキャナーを持っているわけではない。

問題点 3. ホームページへの掲載許諾をもらえない場合もある。



問題点 1、3 は関係者のみに配布される講義録と、一般に対して公開される www との違いに起因するものである。

対策としては、

1. 基研の www で公開する。これは 97 年度秋の学会 (都立大) における三者総会で可決されており、すでに素粒子パートでは実行されている。また、RCNP の www での公開より自由度は高い。
2. RCNP の www で公開する。上記の問題点に関して RCNP の www 管理者水野義之氏に問い合わせたところ以下の回答を得た。

問題点 1. : 出典を明らかにすれば問題はない。

問題点 2. : 図の電子化に関しては若手で行なってほしい。不可能な場合は RCNP で電子化することも検討する。

また、RCNP での講義録の発行には

# 日本語で行なわれた講義を英語に翻訳するには相当な労力が必要になる。

という問題点がある。これに関しては「講師の先生に英語での執筆を依頼すればよい。」との回答を得たが、現在 RCNP 側の認識を確認中である。

### 2.2.3 その他の対策

電子化する場合、問題点 3 により講義録の発行ができない講義もでてくる可能性もある。そのため www による発行がなされたとしても印刷による発行は重要であると考えられる。若手の財源を維持するためにも今年度改めて来年度の予算を RCNP に請求していただくことを提案したい。RCNP の予算編成会議は 2 月に行なわれるので、この結果を春の学会における総会で議論することも可能である。